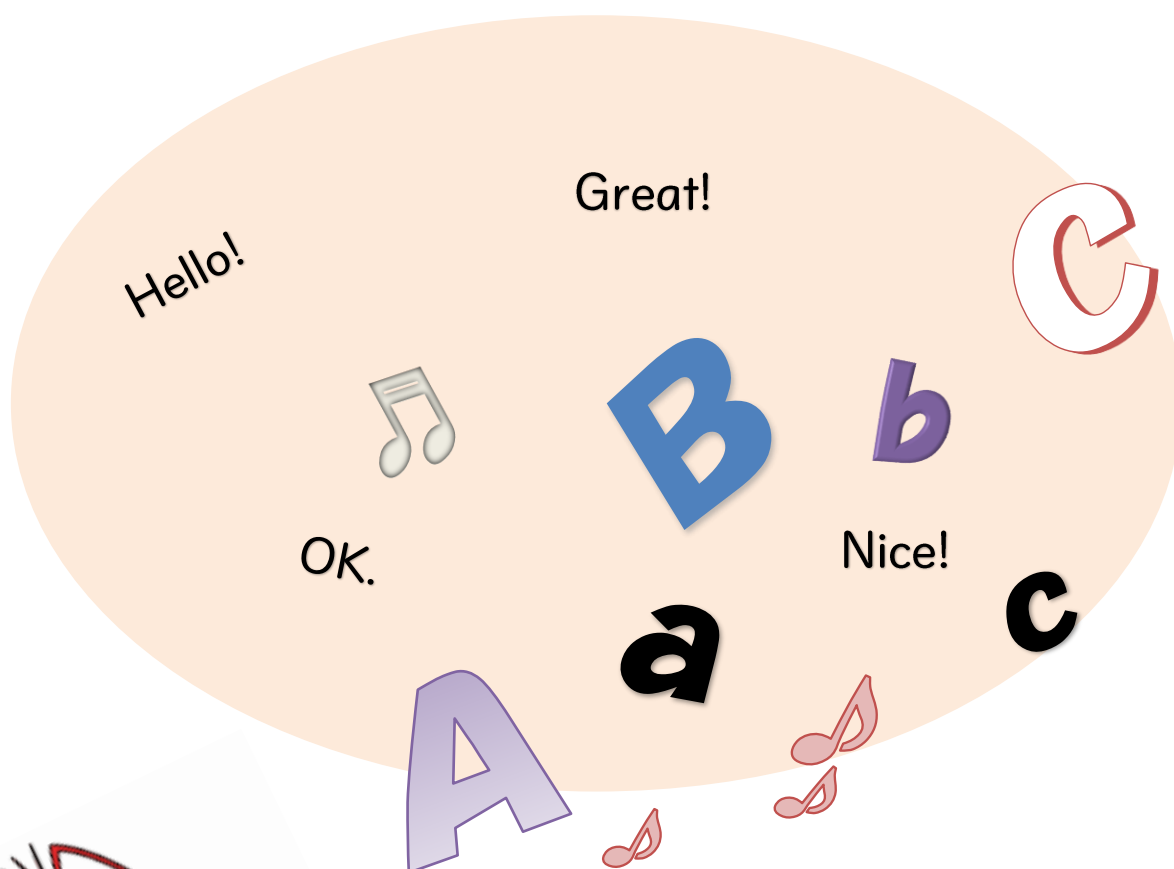


令和2年度

英語教育推進事業
モデル校実践事例集



三重県教育委員会
小中学校教育課

はじめに

平成30年度から2年間の移行期間を経て、令和2年4月から新学習指導要領が小学校において全面実施になり、公教育における新しい外国語教育が本格的に進められています。各小学校、教育委員会等におかれましても、研修を重ね、様々に工夫され、外国語教育の推進に御尽力いただいてまいりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、長期の臨時休業や徹底した感染予防対策など、各学校ではこれまでにない対応が求められる中、外国語教育をどのように進めていけばよいのか、不安を感じられた先生方もいらっしゃったことと思います。

県教育委員会としましては、今年度「英語教育推進事業」にて、昨年度に引き続き、津市立南立誠小学校をモデル校に指定し、今年度から使用されている教科書の有効活用、Small Talkの在り方、パフォーマンステストの活用、ICTの活用等、小学校高学年における指導の在り方や評価についての研究を行いました。

本冊子では、モデル校での取組をもとに、小学校外国語教育の在り方について、講師の講評、公開授業の指導案等を掲載しました。

本実践事例集を授業や研修会等で積極的に活用していただき、児童生徒が積極的に英語でコミュニケーションを図る力の育成を一層進めていただけるよう願っています。

令和3年3月
三重県教育委員会

<目次>

はじめに

I 小学校外国語教育の指導と評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科 准教授 川村 一代

II 実践事例 ～令和2年度モデル校 津市立南立誠小学校の取組～

(1) 公開授業

Listen to My Dream ! 「My Future, My Dream」・・・・・・・・・・ 7

*事後検討会をもとに、公開授業当日の配付資料とは一部変更になっています

(2) 資料

・ Small Talk 実践例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

・ 英語ふりかえりシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

・ 津市版技能別 CAN-DO リスト・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

小学校外国語教育の指導と評価

皇學館大学 文学部コミュニケーション学科 川村 一代

はじめに

2020年度は、新しいことをたくさん経験する年となりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための長期臨時休校にはじまり、学校が再開されてからも、マスク着用で人と人との距離を取るなど「新しい生活様式」のもと、世の中が大きく変わりました。

そんな中、新学習指導要領が全面実施され、小学校英語教育も大きく変わりました。新体制一年目は制約の多い一年でしたが、昨年度に引き続き、公開授業やそれに向けての授業研究に取り組まれた津市立南立誠小学校の先生方に、敬意を表したいと思います。

1. 外国語活動と外国語

今年度から、3・4年生対象の「外国語活動」と5・6年生対象の教科「外国語」がスタートしました。「外国語活動」と「外国語」の違いをまとめたものが以下の表です。

	外国語活動	外国語科
区分	教科外の教育活動	教科
対象	3・4年生	5・6年生
授業時数	年間35単位時間	年間70単位時間
扱う領域	聞くこと、話すこと	聞くこと、話すこと 読むこと、書くこと
学習指導要領の 目標の記述	〇〇するようにする	〇〇できるようにする
目的	慣れ親しみ できるようになることを第一の 目的としないが、結果として できるようになるとよい	定着 できるようになることを 第一の目的とする
教材	文科省補助教材 Let's Try! 1, 2	各自治体が採択した 教科書
評価	観点別評価	
	文章による記述	三段階の評定

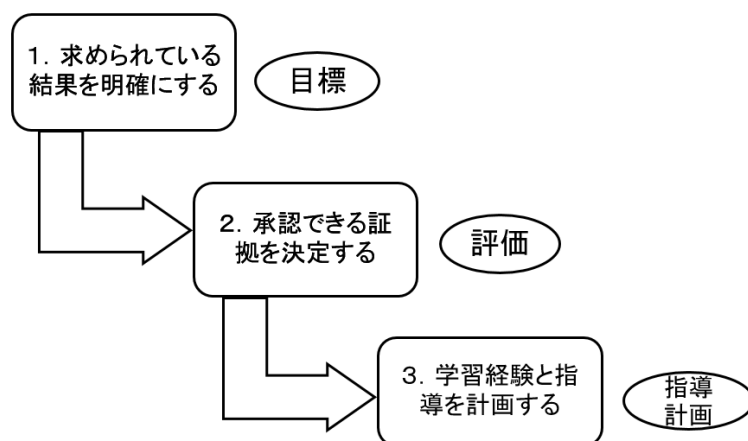
図1. 外国語活動と外国語科の違い

様々な違いがありますが、太線で囲ってある「学習指導要領の目標の記述」と「目的」に注目してみましょう。「目的」とは、最終的に狙う的ですが、的に達する途中の標（しるべ）となるのが「目標」です。『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』の付録6に「『外国語活動・外国語の目標』の学校段階別一覧表」が掲載されています。「5つの領域別の目標」を見ると、「外国語活動」の目標の文末は「～するようにする」、「外国語」は「～できるようにする」と記述されています。つまり、5・6年生では「英語

を使って〇〇できる」具体を増やししながら、語句や表現の定着を図り、「コミュニケーションを図る基礎」を、3・4年生では「英語で〇〇する」ことを通して英語に慣れ親しみ、「コミュニケーションを図る素地」を養います。「外国語」の「定着」とは、単なる暗記ではなく、「実際のコミュニケーションの場で、目的・場面・状況に応じた語句や表現が使えるようになる」ことを指します。

2. 「逆向き設計」論^{注1}を活用した授業づくり

「英語を使って〇〇できること」を確実に増やしていくために、「逆向き設計」論を活用した授業づくりが効果的と考えます。「逆向き設計」論を外国語の授業づくりに当てはめると、①英語を使ってできるようになることを目標（評価規準）として設定し、②目標が達成されたかをどう判断するのか（評価基準）を決め、③目標達成へ向かっての指導計画を立てる、となります（図2）。以下で、公開授業で扱われた NEW HORIZON Elementary 6 の Unit 8 My Future, My Dream を例に、「逆向き設計」論を活用した授業づくりを見ていきましょう（図3）。なお、この単元の内容は、各社の教科書で扱われています。



G. Wiggins & J. McTighe (2005). UNDERSTANDING by DESIGN., Expanded 2nd Edition. Association for Supervision and Curriculum Development (ASCD). [G. ウィギンズ, J. マクタイ(西岡加名恵訳)『理解をもたらすカリキュラム設計 —「逆向き設計」の理論と方法』日本標準. 2012年]図表1-1. UbD:「逆向き設計」の3段階 (p22)をもとに作成

図2. 「逆向き設計」の3段階

①求められている結果を明確にする（目標設定）

Unit 8 の目標 (Our Goal) は「中学校生活や将来について考え、夢を発表しよう」と教科書に記載されています。単元目標は、どの教科書にも記載されていますので、それを参考に、目標を設定します。単元の終末に、児童に英語を使ってどのようなことができるようになってほしいか、目指す姿を児童にわかりやすい簡単な文で記述します。この単元の場合、「中学校生活や将来の夢を発表しよう」とすることにします。

②承認できる証拠を決定する（評価基準設定）

Unit 8 の目標は「中学校生活や将来の夢を発表しよう」と決まりましたが、これでは具体的にどのような英語を使えばよいのかがわかりません。そこで、目標の内容を表現する具体的な英語（最終形）を設定します。本単元では、中学校生活について「入りたいクラブ」「楽しみたい行事」、将来の夢について「得意なこと」「将来就きたい職業」が発表できることを目指し、それらを表現する“I want to join ~. I want to enjoy ~. I am good at ~. I want to be ~.”という英語を最終形として設定します。最終形の英語は教科書に記載されていますので、それを参考に、目の前の児童に合わせて各学校でアレンジするとよいでしょう。単元末の発表で最終形が使えていれば B 評価となります。授業では、全員が最終形を使えるようになるよう指導をします。

③学習経験と指導を計画する

単元目標（大きな目標）と評価基準が決まったら、毎時間の目標（小さな目標）を設定します。大きな目標を達成するには、各時間何ができるようにする必要があるのか、そのためにはどんな活動をすべきかを考えます。指導者がねらいを持って授業を行えば、児童はそれに応えてくれます。小さな目標を積み重ねていくことにより、大きな目標が達成できます。大きな目標を達成して「英語で〇〇できること」を積み重ね、「外国語」の目的である「実際のコミュニケーションの場で、目的・場面・状況に応じた語句や表現が使えるようになること」を目指します。

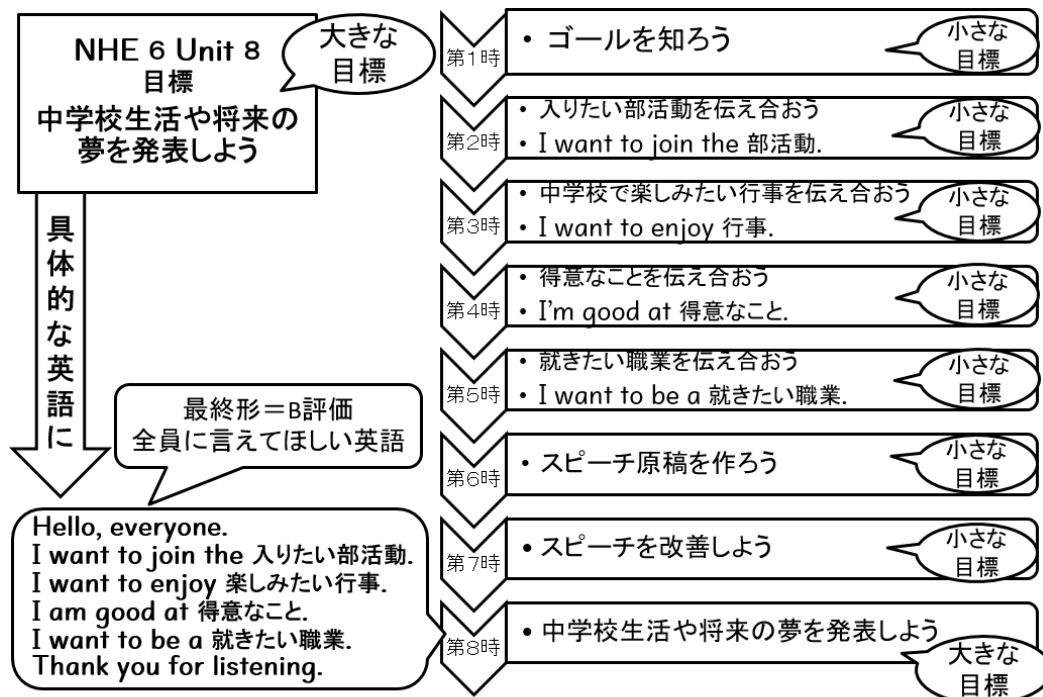


図 3. 目標・評価・単元計画

注1：ウィギンズとマクタイが提唱する「逆向き設計」論では、リアルな文脈の中で知識やスキルを応用・総合しつつ使いこなすことを求めるような課題（西岡、2008）である「パフォーマンス課題」をカリキュラムに位置づけることが提唱されているため、「英語を使って〇〇できるようになる」ことを目標とする外国語の授業は、「逆向き設計」論と親和性が高いと考えます。「逆向き設計」論では、①「求められている結果を明確にする」、②「承認できる証拠を決定する」、③「学習経験と指導を計画する」という3段階を経てカリキュラムや単元を設計します（図2参照）。教育によって最終的にもたらされる結果から遡って教育を設計する点、また通常、指導が行われた後で考えられがちな評価を先に構想する点から「逆向き」と呼ばれています（西岡、2005）。

3. ICTの活用^{注2}

南立誠小学校では、今年度2学期より、外国語の授業にタブレット端末を取り入れました。公開授業では、児童がペアになり、お互いの発表をタブレット端末で撮影し合っていました（写真1）。児童は、パートナーに撮影してもらった自分の発表動画を見て（写真2）、発表の改善を図りました。改善点を見出した児童は、「もう一回撮って」とパートナーに頼み、自らの学習を調整して主体的に学ぶ姿が見られました。



写真1：パートナーの発表を撮影する様子 写真2：撮影された動画を振り返る様子

「話すこと（発表）」に関するタブレット端末の活用としては、写真など画像を用いて発表資料を作成することもできるでしょう。発表資料の作成に絵を描かせると、時間がかかったり、上手下手が生じたりしますが、タブレット端末を用いれば、そういった問題が解消できます。また、発表の動画を記録してポートフォリオにしていくと、児童が自らの成長を確認できるだけでなく、保護者への報告にも使えます。中学校の先生と共有すれば、小学校でどのようなことがどの程度できるようになっているか情報提供ができます。

小学校英語の授業では、ICTを、①提示ツール、②発表ツール、③記録ツール、④通

信ツール、⑤共有ツールとして活用できます（東口、2020）。今回の授業では、「記録ツール」として活用しました。三重県教育委員会令和2年度研修講座【K0920】（ネットDE研修）では、「外国語教育におけるICT活用研修－小学校英語－」を扱っています。令和2年度は2月26日まで配信していましたが、令和3年度も配信の予定です。ご覧いただければと思います。

注2：新型コロナウイルスの影響で、GIGAスクール構想が前倒しされ、2021年度から、一人一台端末を活用した授業が本格的に行われます。GIGAスクール構想とは、児童生徒に、より充実した学びを提供するため、学校に高速大容量の通信ネットワーク環境を整備し、児童生徒全員に一人一台の端末を配備する計画のことです。『小学校学習指導要領（29年告示）外国語活動・外国語』には「児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること」と書かれています。ICT活用は、児童の学びをより豊かにするものであることはもちろん、先生方にとっても指導の効率化が図れるものなのです。

4. 評価について

文部科学省国立教育政策研究所の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動』では、評価を、「記録に残す評価」と記録に残さない、「児童の学習改善」「教師の指導改善」につながる評価に分けています。

「記録に残す評価」は、外国語の場合、3つの観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）と5つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）を掛け合わせた15の観点で評価します（図4）。



図4. 外国語の評価

この15の観点は、1単元で見取るのではなく、複数の単元に亘り、学年を通して見取ります。公開授業で扱われた単元では、「話すこと（発表）」と「書くこと」を「記録に残す評価」として評価していました。

外国語における「知識・技能」は言語材料（英語）を正しく使っているかを見ます。小学校では、文構造（語順）は評価しますが、複数形のsなどの文法は評価対象とはなりません。「思考・判断・表現」では、目的・場面・状況に応じて、その場に合った内容の英語を使っているかを見ます。従って、「思考・判断・表現」を評価するには、目的や場面、状況がある中で言語活動を行う必要があります。「主体的に学習に取り組む態度」は、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているかを評価しますので、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」は一体的に見取ることができます。「主体的に学習に取り組む態度」は、粘り強く取り組んでいるだけでなく、自分で自分の学習状況を客観的に把握し、自己調整を図りながら取り組んでいるかどうかでも評価します。

おわりに

今年度から、従来の「外国語活動」に加えて教科「外国語」が始まり、小学校英語は新しい時代を迎えました。教科書が導入され、「読む」「書く」活動が入り、評価方法が変わりましたが、「音声」「意味」「活動」を重視することには変わりはありません。音声中心に、意味のある活動の中で、実際に英語を使って、英語のできることを蓄積していきます。

外国語学習は、アメリカの哲学者 Dewey（デューイ）のいう、Learning by Doing（やりながら学ぶ）精神が大切です。児童も指導者も、授業の中で英語をたくさん使って、英語のできることを増やしていき、実際のコミュニケーションの場で、英語を用いてコミュニケーションを図る力をつけていきましょう。

引用文献

西岡加名恵（2005）. 「ウィギンズとマクタイによる「逆向き設計」論の意義と課題」『カリキュラム研究』第14号, 15-29.

西岡加名恵編著（2008）. 『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書出版.

東口貴彰（2020）. 『小学校英語×ICT「楽しい」を聞きだす活動アイデア60』明治図書出版.

小学校外国語科学習指導案

津市立南立誠小学校 第6学年

- 1 単元名 Listen to My Dream !
 教材名 「My Future, My Dream」 (NEW HORIZON Elementary 6 Unit 8)

2 単元目標

自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、中学校生活や将来の夢などについて、その概要が分かったり、伝え合ったり、話したりすることができる。例文を参考に、文を読んだり、書いたりすることができる。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと (発表)	<知識> 【I want to join ～. I want to enjoy ～. I'm good at ～. I want to be ～. およびその関連語句など】について、理解している。 <技能> 中学校生活や将来の夢などについて、【同上】を用いて、話す技能を身に付けている。	相手に自分のことを伝えるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、工夫をして話している。	相手に自分のことを伝えるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、工夫をして話そうとしている。
書くこと	<知識> I want to join ～. I want to enjoy ～. I'm good at ～. I want to be ～. およびその関連語句などについて、理解している。 <技能> 中学校生活や将来の夢などについて、例文を参考に書く技能を身に付けている。	自分のことを伝えたりするために、中学校生活や将来の夢などについて、例文を参考に書いている。	自分のことを伝えたりするために、中学校生活や将来の夢などについて、例文を参考に書こうとしている。

4 単元設定の理由

(1) 単元について

2学期より、総合的な学習の時間において、キャリア教育を進めてきた。児童は、自分たちの将来を描いたドリームマップの作成を通して、夢を語ることの素晴らしさを知ることができた。本単元は、ドリームマップで学んだことと関連させながら進めていく。単元名は「Listen to My Dream!」とした。

本単元の最終目標は、「夢宣言」で将来の夢を伝え合うことである。ドリームマップと関連させて、将来の夢や、目指したい生き方を語る機会としたい。また、将来の夢への中間地点として、目の前に近づいている中学校生活についても考えさせたい。中学校で何をしたいのかイメージを持たせ、それらを英語で表現させたい。

「夢宣言」は、小学校外国語科の総まとめとしての役割を担っていると考えられる。これまで学んだ語句や表現を使ったり、コミュニケーションのポイントを意識したりしながら、取り組ませていく。そして、「夢宣言」をすることで、ドリームマップでの学びをさらに深め、堂々と中学校へ進んでいく姿を期待したい。

(2) 児童について

本冊子には掲載していません。

(3) 指導について

本単元では、自分の思いや考えがより友だちに伝わりやすい夢宣言をすることを大きな目標に、教師と児童、児童と児童がつながり、高め合いながら毎時間の授業に取り組んでいきたい。

第1時では、授業者によるモデルを見せたり、単元の流れや語句、最終目標を見通すことができるワークシートを配布したりする中で、単元終わりで行う夢宣言を児童に具体的にイメージさせたい。夢宣言に用いる英文は、NEW HORIZON Elementary 6 p.76にあるものを基本とし、以下のようにする。英文は、聞いたり話したりして音声に十分慣れ親しんだ後、毎時間少しずつワークシートに書き溜めていき、夢宣言までに完成するようにしていく。

Hello, everyone.

I want to join the ~. (入りたい部活動)

I want to enjoy ~. (楽しみたい行事)

I am good at ~. (得意なこと)

I want to be a ~. (就きたい職業) / I want to ~. (目指したい生き方)

(This is my future dream.)

Thank you for listening.

第2時、第3時では、将来の夢、したいこと、その理由などについて、教科書に掲載されている活動を活用して、音声から慣れ親しんでいく。ここでの英文が夢宣言の軸となるので、丁寧に押さえたい。

第4時では、夢宣言に向けてグループでスピーチの練習や交流を行う。観点は、「発表の内容」と「発表の伝え方」とする。ここでは、スピーチの評価基準を児童に示し共有する。

	発表 (内容)	発表 (伝え方)	
		声、スムーズさ	目線、ジェスチャー
S	言いたいことを整理して情報を加え、正しい語順で相手に伝えることができる	内容を意識して、みんなに聞こえる声でスムーズに発表することができる	相手の様子を見ながら身振り手振りの工夫をして発表することができる
A	言いたいことを整理して、正しい語順で相手に伝えることができる	内容を意識して、みんなに聞こえる声で発表することができる	相手を見ながら発表することができる
B	言いたいことを整理して、相手に伝えることができる	間違えたところは言い直しをして、最後まで発表することができる	原稿を見ながらも、相手を見て発表することができる。
C	言いたいことが整理できていない	最後まで発表することができない	相手を見ずに発表している

交流の中ですべての児童が主体的に取り組めるよう、新たな英文を付け足す、間違えずに言い切る、相手を見ながら発表する、などそれぞれ自分に合った目標をもって取り組ませ、一人ひとりが「英語でコミュニケーションをとれた」という達成感を味わえるようにしたい。

第5時では、これまでワークシートに書き溜めてきた英文を、一枚のスピーチ原稿へ書き写す。丁寧に、語と語の区切りを意識しながら、正しく書かせたい。

第6時では夢宣言に向けて、スピーチの評価基準の「声、スムーズさ」を意識して、ペアでスピーチの練習や交流を行う。ここでは児童が主体的に取り組めるよう、タブレット端末でスピーチの動画を撮影し、自分の課題を見つけ、練習や交流をする中で改善させたい。また、内容についても改善し、改善した内容をもとに、原稿を丁寧に正しく書かせたい。

第7時では夢宣言に向けて、スピーチの評価基準の「目線、ジェスチャー」を意識して、ペアでスピーチの練習や交流を行う。第六時同様に、児童が主体的に取り組めるよう、タブレット端末でスピーチの動画を撮影し、自分の課題を見つけ、練習や交流をする中で改善させたい。

第8時では、いよいよ「夢宣言」としてスピーチをする。評価基準を確認し、自分の思いや考えを伝えられるようにしたい。そして小学校生活最後の外国語でのスピーチであることから、本單元だけではなく、これまでのスピーチの練習で培ってきた力を十分に発揮してくれることを願う。

5 CAN-DO リストと本単元の対応

	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
6年生の到達目標	世界の国や人々と比較しながら、日常生活や身近な事柄について、伝え合うやり取りを聞いて、概要を理解することができる。	日常生活や身近な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味を理解することができる。	世界の国や人々と比較しながら、日常生活や身近な事柄について、その場で簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 世界の国や人々と比較しながら、日常生活や身近な事柄について、相手に伝える等の目的をもって、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。 郷土津市について、TSU-CHANTを参考にしながら、他者に向かって友達と紹介することができる。 	日常生活や身近な事柄について、語順を意識しながら、相手に伝える等の目的をもって、例文を参考に音声で十分に慣れ親しんだ基本的な語句や表現を選んで、書き写すことができる。
Unit 8	中学校生活や将来の夢についてのやり取りを聞いて、内容を理解することができる。	/	中学校でしてみたいことや将来の夢について、たずねたり伝えたりすることができる。	中学校生活や将来について考え、夢を発表することができる。	中学校でしてみたいことや将来の夢について、例文を参考にして文を書くことができる。

※太線は、記録に残す評価

6 単元指導計画 (全8時間)

時	◆目標 ○主な活動 【誌面化されている活動】	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準 〈評価方法〉 ◎は記録に残す評価
1	<p>◆単元の流れと最終目標を知り、将来の夢を表す表現を聞いたり言ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートから、単元の流れと最終目標を知る。 【Let's sing】 ○Small Talk ○【Starting out】 【Let's Try①】 ○【Let's Read and Write①】 ○【Let's Read and Write②】 				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>

2	<p>◆中学校で楽しみたい行事やその理由について、聞いたり言ったりする。</p> <p>【Let's sing】</p> <p>○Small Talk</p> <p>○【Let's Listen①】</p> <p>○【Let's Try②】</p> <p>○【Let's Read and Write③】</p>	<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
3	<p>◆将来就きたい職業やしたいこととその理由について、聞いたり言ったりする。</p> <p>【Let's sing】</p> <p>○Small Talk</p> <p>○【Let's Listen②】</p> <p>○【Let's Try③】</p> <p>○【Let's Read and Write④】</p>	<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
4	<p>◆相手により伝わりやすい「夢宣言」にするため、内容を改善する。</p> <p>【Let's sing】</p> <p>○Small Talk</p> <p>○グループ学習</p> <p>①友だちと良い点や質問を伝え合う。</p> <p>②夢宣言の文の順番を入れ替えたり、英文を付け足したりして工夫する。</p> <p>○グループ活動を通して学べたことを交流する。</p>	<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
5	<p>◆「夢宣言」の文を正しく書き写すことができる。</p> <p>【Let's sing】</p> <p>○Small Talk</p> <p>○これまでに書いてきた文を参考に、ワークシートへ書く。</p>	<p>書</p> <p>〔「書くこと」の記録に残す評価〕</p> <p>◎中学校生活や将来の夢などについて英文の語順などを理解している。中学校生活や将来の夢などについて、例文を参考に書く技能を身に付けている。〈ワークシート記述分析〉</p> <p>・児童が書いたワークシートの記述を分析し、評価の記録を残す。</p>
6	<p>◆「夢宣言」で自分の考えがより伝わるようスピーチの内容を改善し、丁寧に正しく原稿を書くことができる。</p> <p>声の大きさやスムーズさを意識して、より友達に伝わるスピーチができる。</p>	

	<p>【Let's sing】</p> <p>○Small Talk</p> <p>○ペア活動</p> <p>①友だちと良い点や改善できる点を伝え合う。</p> <p>②「声・スムーズさ」の観点でスピーチの改善をする。</p> <p>○ペア活動を通して学べたことをもとに、文の入れ替えや英文の付け直しを行う。</p>			書 書	<p>〔「書くこと」の記録に残す評価〕</p> <p>◎自分のことを伝えたりするために、中学校生活や将来の夢などについて、例文を参考に書いている。〈ワークシート記述分析〉</p> <p>◎自分のことを伝えたりするために、中学校生活や将来の夢などについて、例文を参考に書こうとしている。〈ワークシート記述分析〉</p> <p>・児童が書いたワークシートの記述を分析し、評価の記録を残す。</p>
7	◆目線やジェスチャーを意識して、より友だちに伝わるスピーチができる。				
	<p>【Let's sing】</p> <p>○Small Talk</p> <p>○ペア活動</p> <p>①友だちと良い点や改善できる点を伝え合う。</p> <p>②「目線・ジェスチャー」の観点でスピーチの改善をする。</p> <p>○ペア活動を通して学んだことをもとに、より分かりやすく伝わるように工夫する。</p>			発 音	<p>〔「話すこと[やり取り]」の記録に残す評価〕</p> <p>◎相手に自分のことを伝えるために、声の大きさや話す速さなどに気をつけたり、ジェスチャーを使ったりするなど、工夫をして話そうとしている。〈行動観察〉</p> <p>・児童が自分のことを話している様子を見取り、評価の記録を残す。</p>

8	◆「夢宣言」をし、友だちに将来の夢を伝えることができる。				
	<p>【Let's sing】</p> <p>○Small Talk</p> <p>○「夢宣言」を、一人ずつ、全員の前でする。</p> <p>○スピーチをふり返る。</p>	発	発	発	<p>〔「話すこと[発表]」の記録に残す評価〕</p> <p>◎中学校生活や将来の夢などについて、I want to join ～. I want to enjoy ～. I'm good at ～. I want to be ～. およびその関連語句などを用いて、話す技能を身に付けている。</p> <p>〈行動観察〉</p> <p>◎相手に自分のことを伝えるために、声の大きさや話す速さなどに気をつけたり、ジェスチャーを使ったりするなど、工夫をして話している。〈行動観察〉</p> <p>◎相手に自分のことを伝えるために、声の大きさや話す速さなどに気をつけたり、ジェスチャーを使ったりするなど、工夫をして話そうとしている。〈行動観察〉</p> <p>・児童が自分のことを話している様子を見取り、評価の記録を残す。</p>

7 言語材料

【表現】 I want to join ～. I want to enjoy ～. I'm good at ～. I want to be ～.

【語彙】 部活動(basketball など) 学校行事(entrance ceremony など) 動作(run など)
教科(math など) 職業(singer など)

8 本時の指導 (7 / 8)

○目標 目線やジェスチャーを意識して、より友だちに伝わるスピーチができる

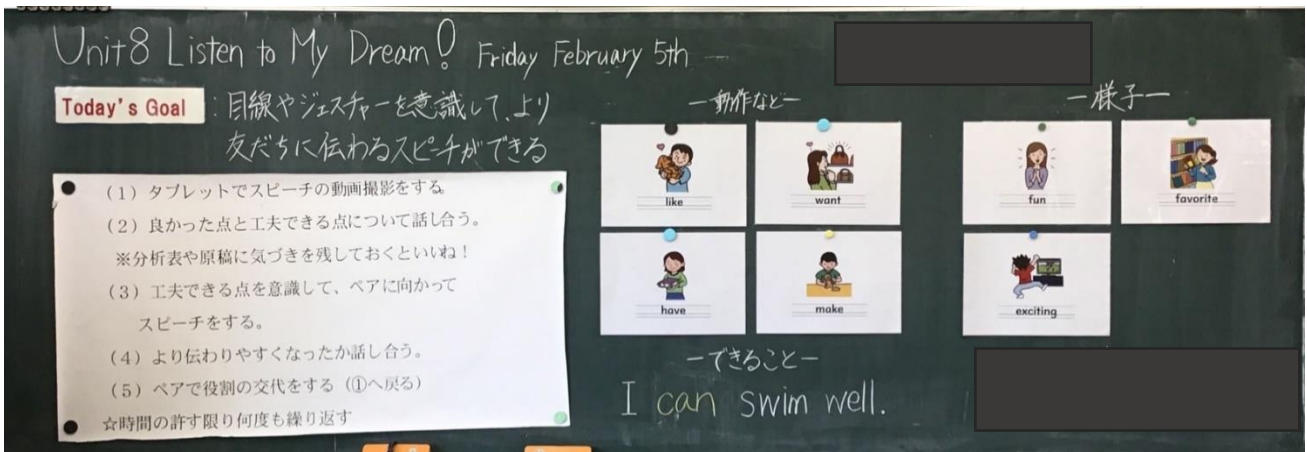
○本時の指導 (45分)

活動 時間	児童の活動 【】 = 誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例 評価〈方法〉 ◎は記録に残す評価
3分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする。 ・ 【Let's sing】 My Future Dream p.73 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。

12分	<p>・ Small Talk</p>	<p>・ 指導者がスピーチをし、適宜数名の児童に発問を投げかける。</p> <div data-bbox="274 286 1410 1115" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>HRT: I like sports..</p> <p>Do you like sports? Raise your hands.</p> <p>(手を挙げた子に対して) What sport do you like?</p> <p>Soccer? Volleyball? Running? What sport do you like?</p> <p>S1: Soccer!</p> <p>HRT: Oh, you like soccer. I like soccer, too. Soccer is exciting!</p> <p>But, soccer is not my No.1 sport.</p> <p>I like……Volleyball! I like volleyball very much. Volleyball is exciting, too.</p> <p>Do you like volleyball?</p> <p>I want to play volleyball in the near future.</p> <p>I want to be a good attacker!</p> <p>I want to play volleyball with my friends in the near future.</p> <p>What is your dream? What do you want to do in the future?</p> <p>I want to play volleyball. What do you want to do in the future?</p> <p>Anything is OK. I want to go to Tokyo. I want to read many comic books.</p> <p>Let's talk. Let's ask your friends. What do you want to do in the future?</p> <p>Please stand up and make pairs. Let's start.</p> </div> <p>①ペア活動 1 回目</p> <p>②中間交流</p> <p>③ペア活動 2 回目</p> <p>④ペア活動 3 回目</p>
25分	<p>・ Activity</p> <p>①Today's Goal</p> <div data-bbox="363 1541 1273 1603" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目線やジェスチャーを意識して、より友だちに伝わるスピーチができる。</p> </div> <p>②改善の視点をペアで交流</p> <p>③ペア活動 1 回目</p>	<p>・ HRT は、机間指導をし、適宜声かけをする。</p> <p>・ 言いたかったが言えなかったことなどを尋ねる。</p> <p>・ 児童にどのように表現すればよいかを考えるように言う。</p> <p>・ ペアの交代をするように言う。</p> <p>・ 前時に児童一人一人が考えた、本時に取り組む改善の視点を全体で交流する。</p> <p>・ ペアで改善の視点を交流し、相手が本時で何を改善したいのかを理解するように言う。</p> <p>・ ペア活動の進め方を再度確認させる。</p>

	<p>④中間交流</p> <p>⑤ペア活動2回目</p> <p>⑥伝え方の工夫</p>	<p>(1)タブレットでスピーチの動画撮影をする。 (2)良かった点と工夫できる点について話し合う。 ※分析表や原稿に気づきを残しておくといいね! (3)工夫できる点を意識して、ペアに向かってスピーチをする。 (4)より伝わりやすくなったか話し合う。 (5)ペアで役割の交代をする(①へ戻る) ☆時間の許す限り何度も繰り返す。</p> <p>・代表者にスピーチをさせる。 ・目線やジェスチャーについて、どういったとことが良いのかを考えるように言う。</p> <p>・中間交流で見つけた良い点を意識させて練習をするように言う。</p> <p>・友だちにより自分の思いを伝えるためには、何が大切かを考えさせる。 ◎相手に自分のことを伝えるために、声の大きさや話す速さなどに気をつけたり、ジェスチャーを使ったりするなど、工夫をして話そうとしている。〈行動観察〉</p>
<p>5分</p>	<p>・ふり返り</p> <p>①ふり返りカードを書く</p> <p>②ふり返りの交流</p>	<p>[ふり返りの視点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったこと ・友だちとの関わりによる変化 ・疑問 <p>・数名の児童を指名し、スピーチの変化を全体で交流する。</p>
	<p>・挨拶をする。</p>	

8 板書計画



Small Talk 実践例

使用教科書「NEW HORIZON Elementary 6」(東京書籍)

<Unit6 Let's think about our food.>

What do you usually eat for breakfast?

I usually eat rice and egg for breakfast.

Do you eat rice and miso soup? Bread and milk?

What do you usually eat for breakfast?

Let's ask your friends.

<Unit7 My Best Memory >

① Yesterday was a holiday

I went to the movie and saw "kimetsu no yaiba".

It was very exciting and wonderful!

I want to see it again.

I had a nice holiday.

How about you?

What did you do yesterday?

Let's talk about yesterday with your friends.

② We enjoyed our sports day in October, our school trip in November.

My best memory is our school trip.

We went to Nara and saw Todaiji. temple.

It was very big.

And we went toToba.

I saw a lot of fish and it was very exciting.

How about you? What is your best memory?

Spots day? School trip? Or English lessons? School lunch?

Anything is OK.

Let's talk about it with your friends.

<Unit8 My Future, My Dream>

In April, you'll study in junior high school.

You'll study English, Japanese, math, PE and so on.

In junior high school, my favorite subject was P.E.

It was so fun.

What subject do you want to study in junior high school?

English? Math? Japanese?

And why?

Let's ask your friends.

月 日	めあて ()
できるように なったこと	
友達との関わり による変化	
次の授業の計画	
疑問	
月 日	めあて ()
できるように なったこと	
友達との関わり による変化	
次の授業の計画	
疑問	
月 日	めあて ()
できるように なったこと	
友達との関わり による変化	
次の授業の計画	
疑問	
月 日	めあて ()
できるように なったこと	
友達との関わり による変化	
次の授業の計画	
疑問	

小・中学校7年間を通した 津市版技能別CAN-DOリスト

教育研究支援課

読むこと	聞くこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
中学校 3年生				
・物語や記事、説明文などを読み、自分の感想や意見を述べるができるように、その内容や大切な部分を整理しながら正確に読み取ることができる。	・様々な場面で話されるまとまった英語を聞いて、話し手に聞き返したり、概要や要点を整理したりしながら、話し手の考えや意向を意識して、内容を正確に聞き取ることができる。	・読みんだり聞いたり書いたりしたことについて、感想や意見を話し合ったり、問答をしたりすることができる。	・自分の選んだテーマなどについて、相手に伝えるなどの目的をもって、まとまった内容でスピーチをすることができる。 ・郷土津市について、他者に伝えるよう、まとまった内容でスピーチすることができる。	・様々なテーマについて、情報や自分の考えなどを相手に正しく伝えるなどの目的をもって、文章の構成を意識して書くことができる。 ・郷土津市について、他者に伝えるよう、まとまった内容を書くことができる。
中学校 2年生				
・レポートやスピーチ、物語や説明文を読み、その主な内容を整理しながら、書き手の意向を読み取ることができる。	・放送、天気予報など、特定のテーマについての英語を聞いて、概要や要点を聞き取ることができる。	・身近な話題について、問答するなどして会話を続けることができる。	・様々なテーマについて、情報や意見を正しく伝えることができる。	・語と語や文と文のつながりなどに注意しながら、様々なテーマについて、意見やその理由を含めて書くことができる。
中学校 1年生				
・初歩的な語彙や表現で書かれた文章や物語を読み、その主な内容を整理しながら読み取ることができる。	・初歩的な語彙や表現での会話、自己紹介、放送などを聞いて、主な内容を聞き取ることができる。	・初歩的な語彙や表現などを用いて、自分自身のことや体験したことなどについて、短い会話をするができる。	・初歩的な語彙や表現などを用いて、自分自身のことや体験したことなどについて発表することができる。	・初歩的な語彙や表現などを用いて、自分自身のことや体験したことなどについての短文を、英語のルールに従って3文以上で書くことができる。

小学校 高学年				
6年生				
・日常生活や身近な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味を理解することができる。	・世界の国や人々と比較しながら、日常生活や身近な事柄について、伝え合うやり取りを聞いて、概要を理解することができる。	・世界の国や人々と比較しながら、日常生活や身近な事柄について、その場で簡単な語句や基本的な表現を用いて伝えあうことができる。	・世界の国や人々と比較しながら、日常生活や身近な事柄について、相手に伝える等の目的をもって、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。 ・郷土津市について、TSU-CHANTを参考にしながら、他者に向かって友達と紹介することができる。	・日常生活や身近な事柄について、語順を意識しながら、相手に伝える等の目的をもって、例文を参考に音声で十分に慣れ親しんだ基本的な語句や表現を選んで、書き写すことができる。
5年生				
・アルファベットの大文字・小文字の名前を読むことができる。	・日常生活や身近な事柄についてのやり取りを聞いて、おおよその具体的な情報を理解することができる。	・日常生活や身近な事柄についてのやり取りを聞いて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝えあうことができる。	・日常生活や身近な事柄について、自分の気持ちなどの内容を整理して、話すことができる。 ・郷土津市について、TSU-CHANTを参考にしながら、友達と紹介することができる。	・アルファベットの大文字・小文字を書くことができる。
小学校 中学年				
4年生				
	・天気や時刻、文房具や食べ物、学校の教室や場所等について、ゆっくりはっきり話されれば、自分のことや身の回りのものを表す、簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。 ・アルファベットの読み方が発音されるのを聞いて、どの大文字・小文字であるかが分かる。	・天気や時刻、文房具や食べ物、学校の教室や場所等について、自分のことや相手のことについて質問したり、質問に答えたりすることができる。	・日常生活に関する身近な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	
3年生				
	・サポートを受けながら、あいさつ、数、色や形、食べ物やスポーツ等の自分のことや身の回りのものを表す簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。 ・アルファベットの読み方が発音されるのを聞いて、どの大文字であるかが分かる。	・サポートを受けながら、あいさつ、数、色や形、食べ物やスポーツ等の自分のことや身近な事柄、相手のことについて伝えあうことができる。	・サポートを受けながら、自分のことや身近な事柄を人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	
読むこと	聞くこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
コミュニケーションを図る素地 コミュニケーションを図る基礎				

監修 中村典生（長崎大学 副学長）